

平成 2 2 年度学校関係者評価 全方位的な点検・評価 項目の分析と考察

※肯定的評価（Aとても思う＋B思う）と否定的評価（Cあまり思わない＋D思わない）及び、E分らないに分けてその割合を比較する。

I. 重点目標への取り組み

1. 「授業内容を工夫・改善し、生徒が理解しやすい授業にする。」 授業の内容はよく理解できるという生徒の割合 7 5 % 以上を目指す。
2. 「地域との連携活動をより充実させ、地域とともに育てる教育を促進する。」 地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合 7 5 % 以上を目指す。
3. 「部活動等を充実させ、生徒の個性の伸長を図り、充実感を更に高める。」 部活動は充実しているという生徒の割合 7 5 % 以上を目指す。

重点目標への取り組み	分析結果	評価・課題及び改善方策	
・前年度の学校評価等を踏まえ、重点目標を具体的かつ明確に設定している。	肯定的評価は 8 3 % である。	高いプラス結果である。 地域は 7 6 % が肯定的な評価であったが、保護者は 6 0 % の評価で十分とはいえない。	1
・教職員は重点目標に沿った取り組みを進めている。。	肯定的評価は 8 7 % である。	課題は、保護者への広報活動を進めることである。 ＜改善策＞	2
・保護者・地域の方々へ十分に重点目標を説明している。	肯定的評価は 7 9 % である。	各種たより、ホームページ等により広報活動を行う。また、具体的な取り組みを全校体制で目に見える形で行う。	3

II. 地域とともに子どもを育てる教育

広報活動・情報提供		おおむね良好な結果である。	
・保護者や地域の方に対して、情報を積極的に発信している。	肯定的評価は 9 6 % である。	6. 地域人材等の活用に関しては、さらに活用方法を検討・工夫を行う。	4
保護者・地域連携		情報提供に関しては、保護者・地域のアンケート結果から、保護者に対しては学年だより（プリント）で、地域に対してはホームページで発信していることによりよい評価を得ている。	5
・地域の人材や施設等の活用が進められている。	肯定的評価は 6 7 % である。	学校協議会の活動に関しては、保護者への周知及び地域関係者の評価結果は十分とはいえない。	6
・保護者の相談等にしていねいに対応している。	肯定的評価が 1 0 0 % である。	＜改善策＞ 情報の提供先に合った提供方法を工夫・改善し、学校への理解・協力体制の深化を図る。	7
学校協議会		学校協議会の活動については、避難所運営訓練の定期的な開催及び生徒・保護者の活動への参加等を行い、その広報活動も積極的に行っていく。	8
・学校協議会の活動が活発に行われている。	肯定的評価は 7 1 % である。	ふれあい挨拶デーの取り組みは、学び舎グループとして、小学校との連携のもと継続実施し、地域と一体となり、ともに子どもたちを見守り、育てていく体制を深める。	9
P T A 活動			
・ P T A 活動が活発に行われている。	肯定的評価は 9 6 % である。		
家庭教育支援			
・家庭教育の充実に向け、必要な情報を提供している。	肯定的評価は 7 9 % である。	地域との連携を深めるため、地域活動やボランティア活動への参加を促すシステムづくりをさらに進め、また、広報活動を行っていく。	

III. 未来を担う子どもを育てる教育

教育課程			
【教育課程の編成・管理】			
・学習指導要領の趣旨を活かし教育課程を編成している。	肯定的評価は 9 6 % である。		10
・教育課程の管理が適切に行われている。	肯定的評価は 8 8 % である。		11
【授業時数等】			
・生徒の実態に即した生活時程になっている。	肯定的評価は 8 3 % である。	高いプラス結果である。 各教科では学習指導要領の趣旨に基づいた年間授業計画を作成し、授業時間の確保については、最大限の努力をし、授業を実施している。	12
・各教科等の年間授業時数の確保に努めている。	肯定的評価は 9 6 % である。	＜改善策＞ より授業方法の改善に努める。 行事の精選や準備に関わる時数の工夫を行う。 日課表の改善を検討する。 学校だより、保護者会、HP等で広報していく。	13
教育目標等			
・教育目標を達成するための基本方針や指導の重点は生徒の実態、保護者等の願いを活かしている。	肯定的評価は 7 9 % である。		14
・教育目標を達成するための基本方針や指導の重点を共通理解し、保護者・地域への周知がなされている。	肯定的評価は 7 5 % である。		15

学習指導			
	【指導計画】		
	・指導目標・指導内容を明確にして指導計画を作成している。	肯定的評価は92%である。	16
	・年間指導計画等に基づいて計画的な指導がなされている。	肯定的評価は96%である。	17
	【指導の工夫】		
	・少人数教育の成果がみられている。	肯定的評価は50%である。	18
	・個に応じた指導が適切に行われている。	肯定的評価は79%である。	19
	・体験的・問題解決的な学習が進められている。	肯定的評価は66%である。	20
	・基礎的・基本的な内容の定着が図られている。	肯定的評価は88%である。	21
	【評価】		
	・指導と評価の一体化がなされている。	肯定的評価は96%である。	22
	・評価規準を明確にして評価している。	肯定的評価は96%である。	23
	【教材・教具・施設の活用】		
	・教材教具が整備され、積極的に活用されている。	肯定的評価は67%である。	24
	・学校図書館は有効に活用されている。	肯定的評価は71%である。	25
	・施設・設備は有効に活用されている。	肯定的評価は75%である。	26
	【教科・日本語】		
	・教科「日本語」のねらいについて、教職員の共通理解がなされている。	肯定的評価は29%である。	27
	・教科「日本語」の充実に取り組んでいる。	肯定的評価は42%である。	28
生活指導			
	・生活指導について組織的な取り組みがなされている。	肯定的評価は71%である。	29
	・学校のきまりや基本的な生活のルールが教職員に共通理解されている。	肯定的評価は71%である。	30
	・生徒の規範意識や社会の一員としての自覚を高めている。	肯定的評価は67%である。	31
	・保護者等からの相談に誠実に対応している。	肯定的評価は100%である。	32
	・スクールカウンセラーの活用や相談室等との連携が図られている。	肯定的評価は83%である。	33
道徳			
	・年間指導計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は58%である。	34
	・各教科等との関連を図った指導がなされている。	肯定的評価は38%である。	35
	・道徳的心情、判断力、実践力が育っている。	肯定的評価は25%である。	36
特別活動			
	・年間計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は92%である。	37
	・年間計画に基づいた自主的な運営がなされている。	肯定的評価は92%である。	38
	・生徒の自主的・実践的な態度が育成されている。	肯定的評価は75%である。	39
総合的な学習の時間			
	・年間指導計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は75%である。	40
	・体験等を通して生徒の問題解決能力が育っている。	肯定的評価は50%である。	41

おおむね良好な結果であるが、少人数教育の成果が見られる、体験的・問題解決的の学習、教科日本語の結果が良くない。また、通知表に対する保護者の否定的意見が多いことがあげられる。

＜改善策＞
体験的・問題解決的な学習をより意図的に取り入れるよう工夫する。
教科日本語に関しては、指導体制の改善を行う。また、組織的に指導法の研究を行い、研修等を計画的に実施し、共通理解・充実を全校体制で行う。
評価評定について保護者会や学年だより等でより詳しく説明する。
教科指導の充実を重点目標として取り組む。

おおむね良好な結果である。

保護者アンケート2（2）では否定的意見が昨年度38%・今年度24%となっている。「分からない」も含めると昨年度55%・今年度38%となり改善がみられる。

＜改善策＞
今後も年度当初に、生活指導マニュアルに基づいて、きまりや対応の仕方を確認し、それ以外の不明な点があったときは、定期的に討議の機会を設けて協議する。これらことにより、情報の共有化・共通理解を図り、指導体制を強化する。
問題行動を随時生徒にも知らせ、自分自身について考えさせ、気づかせる指導を推進する。
道徳や学級活動を含め全ての領域で、規範意識の向上を図る。

道徳及び問題解決能力の育成の評価が低い。

＜改善策＞
道徳の年間指導計画の見直しとより深く考えさせるための指導法の工夫を行っていく。
道徳の授業だけではなく、各教科の授業の中や、学校行事等を通じ日々の呼びかけにより道徳的心情を高める。
委員会活動においては、より自主的に考え、企画立案・実践できるよう指導する。
実行委員会・学級会・班会議などを通して、自主的に考える時間を多く設定し、問題解決能力の向上を図る。
校外学習等の体験学習を通して、問題解決能力や意思決定能力、情報活用能力の向上を培わせる。

学校行事			
	・無理なく計画的に学校行事が実施されている。	肯定的評価は６７％である。	42
	・学校行事の工夫・改善が進められている。	肯定的評価は７５％である。	43
健康・体力			
	・体力の向上に取り組んでいる。	肯定的評価は７５％である。	44
	・食育の推進に計画的に取り組んでいる。	肯定的評価は７５％である。	45
	・健康教育について保護者の理解と協力が得られている。	肯定的評価は６３％である。	46
特色ある教育			
	・生徒や地域、学校の実態に応じた取り組みとなっている。	肯定的評価は８８％である。	47
	・学校間連携（幼・小・中・高）を積極的に行っている。	肯定的評価は８８％である。	48
	・学校図書館の活用や種々の場面で国語力の向上を図っている。	肯定的評価は５０％である。	49
	・学校エコライフ活動の取り組みを図っている。	肯定的評価は５８％である。	50
キャリア教育・進路指導			
	・職場体験が効果的に実施されている。	肯定的評価は６７％である。	51
	・キャリア教育・進路指導について組織的な取り組みがされている。	肯定的評価は６７％である。	52
	・生徒、保護者に十分に情報を提供している。	肯定的評価は７５％である。	53
特別支援教育			
	・校内体制が整備され校内委員会は機能している。	肯定的評価は６７％である。	54
	・教育相談室や関係機関との連携が行われている。	肯定的評価は８８％である。	55
部活動			
	・部活動は活発に行われている。	肯定的評価は１００％である。	56
	・部活動の実施体制は適切である。	肯定的評価は７９％である。	57

おおむね良好な結果である。
 特色ある教育の「学校図書館の活用や種々の場面で国語力の向上を図っている」と「学校エコライフ活動の取り組みを図っている」に関しては高い評価とはいえない。
 ＜改善策＞
 学校行事の精選・改善を行う。
 学校図書館と地域図書館の連携強化と、国語力向上に向け各教科や総合的な学習、教科「日本語」での活用を図っていく。
 学校エコライフ活動について、さらに組織的な取り組みを行っていく。
 キャリア教育に関しては、保護者への啓発活動を組織的に進める。
 重点課題として、部活動の充実を引き続き行う。

Ⅳ．信頼と誇りのもてる学校づくり

学校運営・学校経営			
	・校長の経営方針は明確に示されている。	肯定的評価は９１％である。	58
	・校長のリーダーシップは発揮されている。	肯定的評価は８８％である。	59
	・教職員一人一人が主体的、組織的に教育活動を行っている。	肯定的評価は８７％である。	60
	・校務分掌は適切に分担され、各分掌の取組内容等が明確で適切に機能している。	肯定的評価は７５％である。	61
	・教職員の情報共有が適切になされている。	肯定的評価は７１％である。	62
	・校務の情報化が進められている。	肯定的評価は６７％である。	63
学校評価			
	・学校評価は適切に実施されている。	肯定的評価は９２％である。	64
教職員			
	・問題意識や悩みを気軽に話し合える職場となっている。	肯定的評価は６７％である。	65
	・教職員の服務規律への自覚が高く、かつ守られている。	肯定的評価は８３％である。	66
研究・研修			
	・校内研究会・研修会が充実し、日々の実践に役立っている。	肯定的評価は５０％である。	67

★
 おおむね良好な結果である。
 校長のリーダーシップは十分に発揮されている。
 ＜改善策＞
 分掌組織内の仕事分担の改編や特別委員会の活動の活性化を図る。
 分掌等の会議及び学年会等により、情報提供を各教職員が積極的に行う。
 定期的に学年会を設定し、情報の共有を深化する。

保健管理			
	・生徒の実態を踏まえた計画的・組織的な健康指導が行われている。	肯定的評価は79%である。	高いプラス評価である。 ＜改善策＞ 学校全体の生徒の健康状態の把握のため、今後も学校保健委員会で学校医との連携を深めていく。
	・日常の健康観察や健康診断等が適切に行われている。	肯定的評価は100%である。	
安全管理			
	・事故・災害等に迅速に対応できる体制が整備されている。	肯定的評価は91%である。	良好な結果である。 保護者アンケートの10（2）では昨年度30%・今年度29%が否定的意見である。 ＜改善策＞ 避難訓練や安全指導の内容や活動の様子を学年だよりやHP等で紹介する。
	・避難訓練・防災訓練等が適切に行われている。	肯定的評価は96%である。	地域と連携した訓練の実施を今後も継続し、内容の工夫をするとともに学年たよりやHP等で保護者への広報活動をさらに充実させる。
出納・経理			
	・予算の執行が適切に行われ、点検がなされている。	肯定的評価は88%である。	本項目は100%であるべきであり、日常から教職員の意識の向上を徹底的に行う。
	・私費会計の徴収・会計処理が適正に行われている。	肯定的評価は92%である。	
文書・情報管理			
	・個人情報の管理システムが機能し適切に管理されている。	肯定的評価は92%である。	本項目は100%であるべきであり、日常から教職員の意識の向上を徹底的に行う。
	・パソコンによる校務は適切に行われている。	肯定的評価は88%である。	

V. 教育環境の整備

施設・設備			
	・学校の教育環境は整備されている。	肯定的評価は88%である。	良好な結果である。 ＜改善策＞
	・日常的な施設、設備の点検や管理は適切に行われている。	肯定的評価は79%である。	引き続き定期的な点検管理と迅速な対応を行う。

VI. 数値目標の達成状況

数値目標	分析と課題
1. 「授業内容を工夫・改善し、生徒が理解しやすい授業にする。」 授業の内容はよく理解できるという生徒の割合75%以上を目指す。	生徒は「授業の内容はよく理解できる」という項目に対して、70%（A17%, B53%）と評価している。昨年度と同様である。目標は達成できたとはいえない。 A: 「とてそう思う」という生徒の割合は3年間ほとんど変化がない。2年生において、A:13%、B:48%と低い評価である。 保護者への「本校では、子どもにとってわかりやすい授業をしている」の評価においては、昨年度60%、今年度64%の充足度であり、微増したが満足できる結果とはいえない。 ＜改善策＞引き続き校内研修・授業研究等を通して、授業改善及び授業規律の確立に努める。また、各教科ごとや学年ごとのアンケート等を実施することにより、より細かな実態把握と分析をする。
2. 「地域との連携活動をより充実させ、地域とともに育てる教育を促進する。」 地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合75%以上を目指す。	「本校は地域の活動や行事によく協力している。」の保護者の肯定的評価は70%で、昨年度の66%からの微増である。また、「学校は地域の活動や行事によく協力している」の地域の方の肯定的評価は70%で昨年度とほぼ同じである。 評価結果より、目標は達成できたとはいえない。 ＜改善策＞さらに地域行事の予定を生徒・保護者へ周知するため、地域行事予定表を生徒全員に配布する。 地域行事等のボランティア活動では、参加することによる・満足感や充足感・達成感を生徒一人一人が得られる方策を検討していく。
3. 「部活動等を充実させ、生徒の個性の伸長を図り、充実感を更に高める。」 部活動は充実しているという生徒の割合75%以上を目指す。	生徒の「学校全体で、部活動は充実している」の項目では73%の肯定的評価となっている。昨年の72%からの微増にとどまり、目標は達成できたとはいえない。 保護者の「本校は、学校全体で部活動を活発にしようと努力している」の項目では68%の肯定的な評価である。昨年度の72%から微減となった。 「部活動の回数や時間はちょうどいい」の項目は、保護者、生徒ともに63%である。 「入りたい部活動がある」の項目では、保護者58%、生徒72%の肯定的評価で、保護者と生徒との評価が異なっている。 ＜改善策＞部活動の練習内容をさらに検討し、限られた時間のなかで密度の濃い練習計画を作成していくよう改善していく。